

書道美術

公益財団法人
全国書道振興会
会報

第34号
平成29年4月1日発行
発行者 (公財)全国書道振興会
編集責任者 坂本敏史
東京都港区赤坂2-11-1
デルックス溜池山王6階
電話 03-3568-2071
FAX 03-3568-2072
ホームページ <http://shohi.or.jp/>

題字は福島慎太郎初代理事長

役員改選 高木聖雨理事が新理事長に

平成28年12月5日、評議員会が開催され、任期満了に伴い理事・監事の改選が行われた。今回の改選により、平成18年から理事長を務めた津金孝邦理事長が退任された。評議員会後に開かれた新理事・監事による理事会により、荒船清彦代表理事・会長は重任となり、新代表理事・理事長に高木茂行(聖雨)理事が選任された。

代表理事・理事長の 退任にあたって

名誉顧問 津金孝邦

「日本の書展」が第45回を迎えます。全国書道振興会の発足から関わった者としてその長い歴史に感慨を覚えます。初代理事長に共同通信社社長だった福島慎太郎氏を迎え、日本の書道界を開かれたものとし、書道界各派各流を超えて結集し、日本の書道を一層磨き、一般に向けては普及と発展を図るため当会は組織されました。中心となる事業は「日本の書展」の全国展開でした。また、書を世界に羽ばたかせようと海外展もこ

れまで80カ所近くで開催してきました。

平成18年4月に私が当会の理事長を拝命してからも諸事ございました。同時に会長には犬養康彦元共同通信社社長に就任していただきましたが、平成23年からはアルゼンチン大使やスペイン大使などを歴任して「日本の書展」の海外展の開催に積極的だった荒船清彦氏に会長に就任していただきました。

この間、「日本の書展」東京展の国立新美術館での開催、東京展に公募臨書部門の併設、文部科学省認可の財団法人から内閣府認定の公益財団法人になりました。そして、振興会が会派にとらわれない全国的な組織と



(右から) 荒船清彦会長、津金孝邦名誉顧問、高木聖雨理事長

して、書写・書道教育推進協議会と日本書道ユネスコ登録推進協議会という二つの協議会の発足に関わり、事務局運営にも関わっていくという、大きな、大事な事業にも参画いたしました。後任は高木聖雨さんに託します。書道芸術でのお立場はもとより、その行動力と幅広い人脈に大いに期待しております。代表理事・理事長は退任いたしますが、名誉顧問として今後とも、全国書道振興会が書道の普及と振興に寄与できますよう協力してまいります。皆様の永年に亘るご協力に感謝しております。

代表理事・理事長就任の 「いあこわい」

理事長 高木聖雨

この度、津金孝邦前理事長の後任として理事長を拝命いたしました。

本会は昭和49年の財団法人設立後、平成24年に公益財団法人として認可され現在に至ります。この間、歴代の会長・理事長をはじめ諸先輩、役職員のご努力により築き上げてこられました偉大な実績は枚挙に暇がありません。私自身、浅学非才の身であります。この伝統と理念を継承し、我が国の書道振興ならびに本会の更なる発展のために微力ながら心血を傾注してまいりたいと存じます。

本会の主要事業「日本の書展」は書道界を代表する書家が会派を超えて、一堂に集まる貴重な書展です。関西・中部・東京・九州と巡回しており総出品数約3500点、東京展では「公募臨書」という公募展を併催しており、初学の方から書家を夢見る学生諸氏まで多くの出品を頂いております。近年では、書道振興を担う中核機関として二つの大きな活動を積極的に支援しております。皆様ご承知のとおり「つなごう日本の書道文化ユネスコの無形文化遺産に」

のローガンのもと日本の書道文化を保護継承し無形文化遺産に登録する運動であります。昨

年9月には、登録推進協議会の荒船清彦会長、井茂圭洞副会長が団体署名1万4022件を、要望書および有識者の推薦状と共に、宮田亮平文化庁長官に手交いたしました。

もう一つは、我が国の書写・書道教育の充実を図るための活動であります。平成26年に「書写・書道教育推進協議会」が発足されて以来、書道国会議員連盟をはじめとする関係各位のお力添えを頂き、文部科学省ならびに中央教育審議会に対し要望書を提出しております。

この二つの事業は、書道振興に欠かすことのできない柱であり、書道の未来を担うものだと考えております。私は理事長に就任するにあたり、書道人口の増加を図るとともに、我が国の書道が国際的にも存在感を高めていけるよう、書道振興のため一層の充実に努めてまいります。皆様には、今後とも一方ならぬご支援、ご協力を何とぞお願い申し上げます。

高木聖雨 略歴

昭和24年(1949)岡山県生。大東文化大学卒業。平成27年度改組新第2回日展文部科学大臣賞受賞、平成28年度恩賜賞・日本芸術院賞受賞。現在、大東文化大学教授、日展会員、読売書法会常任理事・執行役員、全日本書道連盟理事、謙慎書道会理事長、郁文社主宰。

書写・書道教育推進協議会の活動報告

次期学習指導要領の改訂で小学校低学年からの

毛筆（水書を含む）指導が可能に

平成29年2月14日、文部科学省は平成32年度以降の小中学校の教育内容を定めた学習指導要領の改訂案を公表した。英語が小学3年から始まり、5、6年は教科になることや、グローバル化や人工知能（AI）の発達への対応の充実などが大きく取り上げられ話題になっている。国語科の書写については、「文字文化」がキーワードになり、「文化」の視点が全体を貫いており、小学1、2年からの水書を含む毛筆教育が可能になるなど方向性が示された。高等学校の国語科に書写が取り入れられることが確実となっているが、合わせて全般に書写教育の充実に向けて前進が見られた。これは、書写・書道教育推進協議会がこれまで推進してきた運動の成果といえる。

書写・書道教育推進協議会（会長 荒船清彦）は構成団体（全日本書道連盟、全国書美術振興会、全日本書写書道教育研究会、全日本高等学校書道教育研究会、全国大学書写書道教育学会、全国大学書道学会）と賛同団体（毎日書道会、読売書法会、産経国際書会、日本書道院、

全日本書文化振興連盟、全国書道高等学校協議会）で平成26年

4月に発足し、書道教育の充実を求めて、書道の芸術界と教育界が一丸となって運動を進めてきた。これまで、文部科学大臣へ要望書や95万人近い賛同署名を提出し、構成団体は書写書道教育の実態調査、毛筆教育に関する理論的研究、小学校低学年からの毛筆教育の実践研究などを実施し、報告書を作成してきた。この間、約40団体から1千

百万円近い基金協力があり、前記経費の助成や今後の活動の経費に充てられる。これからは書写・書道教育の充実した実施に向けて、教員研修やそのための講師派遣、そこで使用されるテキスト作りなどが課題になってくる。

以下に今回の学習指導要領案の抜粋と協議会のこれまでの活動の経緯を記す。

小学校学習指導要領（案）

一 国語科の書写の部分を抜粋

第1節 国語

第2 各学年の目標及び内容

「第1学年及び第2学年」

2 内容「知識及び技能」

(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。

(ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。

(イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。

(ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) (知識及び技能) に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。

カ 書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

(ア) 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

(イ) 硬筆を指導する書写の指導は各学年で行うこと。

(ウ) 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単程度を配当するとともに、毛筆を使用する

書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。

(エ) 第1学年及び第2学年の(3)の(ウ)の(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。

(注記) (エ)では第1学年、2学年の書写の内容が新たに示され、そこでは第1学年、2学年から軟筆を使用した指導を述べている。後日出される「解説」には水書用具等を用いた指導の記述が予想される。

書写・書道教育推進協議会の活動の経緯

平成25年6月に文部科学大臣ほかへ「書写・書道教育に関する要望書」を提出。

平成26年9月に文部科学大臣に「書写・書道教育充実のための署名」を提出。署名数は9万4483名。

平成27年2月に初等中等教育局長へ「要望書の具体的内容」を提出。

この間、平成25年10月から平成29年2月まで、構成6団体による実務者会（座長加藤祐司）を22回開催し、具体的な推進運動の協議をする。

平成27年に構成団体が研究、調査の報告書を作成し、文部科学省に提出。制作経費等は

協議会の助成による。

①全日本書写書道教育研究会特別研究委員会小学校部会

小学校低学年（第1・2学年）に対する毛筆（軟筆）指導・導入に関する研究及び検証（平成27年3月）

②全日本書写書道教育研究会特別研究委員会中学校部会

中学校国語科書写の学習指導における生徒・指導者の意識および実態調査（平成27年11月）

③全国大学書写書道教育学会

手で文字を書くことの原理と文字を効果的に書くための方法（平成27年12月）

平成28年10月に書写・書道教育に関するパブリックコメントを提出。

文部科学省では次期学習指導要領改訂に向けて、「次期学習指導要領等に向けた審議のまとめ」を平成28年9月9日に公示し、10月7日までに広く意見を求めるパブリックコメント（意見公募手続き）を実施した。書写・書道教育推進協議会としてはこれまでの「書写・書道教育に関する要望書」や「要望書の具体的内容」沿った内容のコメントを提出。

実務者会委員が、平成28年5月に北海道松前町、平成28年6月に愛知県春日井市の書道特区の小中学校を視察。

（平成29年2月事務局記）

日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動

文化庁長官に要望書や 賛同団体署名を提出

平成28年9月5日、日本書道ユネスコ登録推進協議会は「日本の書道文化」をユネスコの無形文化遺産登録の日本代表案件に選出するように、宮田亮平文化庁長官に要望書、有識者の推薦状、1万4022件の賛同団体署名を手交した。

河村建夫日本書道ユネスコ登録推進協議会特別顧問、関芳弘環境副大臣を立会人とし、文化庁からは、藤江陽子文化財部長、大谷圭介伝統文化課長、濱田泰栄文化財国際協力官室長補佐、協議会からは荒船清彦会長、井

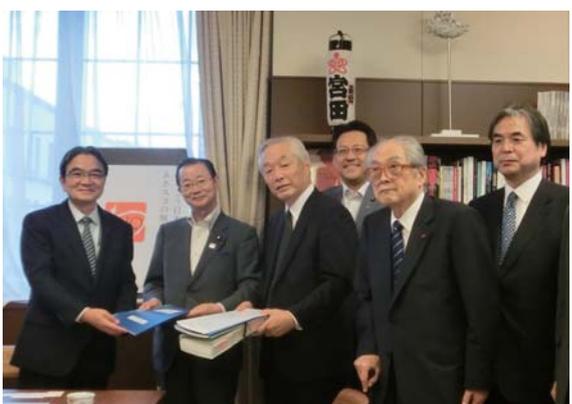
茂圭洞副会長、高木聖雨総務部長が出席して、書類の提出が行われた。

宮田文化庁長官は「たいへん重いものを受け取った。ただ、文化庁としては無形文化財指定案件が先との基本方針をもってあるので、そのこととの調整をしていただきたい。せっかく書道界が全体としてまとまってきているので、登録までにはハードルがあるが、大きな風を起こしてほしい」と応じた。

文化庁サイドでこれから今回提出した要望書、推薦状、賛同団体署名を評価検討してもらう。協議会としては無形文化財指定を受けていない生活文化だが、すでにユネスコ無形文化

遺産に登録されている「和食・日本人の伝統的な食文化」と同様に取り扱い、国内代表案件として取り上げるよう要望を続けながら、文化庁と協議、調整をしていく。

1万4千を超える全国の団体からの賛同団体署名は、47都道府県すべての地域から、書道団体はもちろんのこと、知事や都道府県教育長を始めとする自治体、幼稚園から大学までの教育現場、美術館や博物館などの文化



宮田亮平文化庁長官（左）に要望書・賛同団体署名を提出

施設、社寺などの宗教関係、国際交流団体や企業など、あらゆるジャンルの団体からのものだった。これは当協議会の運動の趣旨をたくさん国民に理解していただき、全国規模の運動として盛り上がりを見せた証しであった。47都道府県の賛同団体署名の地区代表委員の書家の先生方の大変な努力もあった。改めて敬意を表す。

賛同団体署名（HPより）

| ジャンル名 | 枚数 |
|----------|--------|
| 書道国会議員連盟 | 2 |
| 自治体 | 1,513 |
| 学校 | 2,663 |
| 書道団体 | 2,432 |
| 美術館・博物館 | 120 |
| 宗教団体 | 979 |
| 報道関係団体 | 93 |
| 法人・企業等 | 6,388 |
| 署名用紙合計 | 14,190 |

この中には44道府県知事の署名や国立大学の54総長・学長の署名が含まれている。（平成28年12月20日現在）

ロゴマークの使用、ポスター・ バナーの掲示が広がる

多くの書道展会場で「つなごう日本の書道文化 ユネスコの無形文化遺産に」のポスターやバナー（のぼり）が掲示されたり、競書誌や書道関係紙にロゴマークを使用したりするなど、この運動の広報、協賛活動も盛り上がっている。

書道を含む生活文化も

無形文化遺産の審議対象

文化庁は平成29年2月22日、

茶道、書道、盆栽などの生活文化も文化財保護法上の文化財と同様に、提案対象として検討すべきであると発表した。

これは文化庁の方針の大きな転換であり、生活文化が国指定文化財と同じ土俵に乗ったことを意味し、我々の運動の大きな成果といえる。

しかし、国指定文化財の順番待ちをしている団体や、生活文化でも申請を希望する団体が多数あり、これからの運動の本番ともいえる。

関西国際空港で 「日本の書道文化展」開催

平成29年2月16日から26日まで、大阪・関西国際空港のKIXギャラリーで「日本の書道文化展」を開催。ユネスコ登録推進運動の一環として開催されるもので、協議会役員の16名の書



KIX ギャラリーでの日本の書道文化展



ワークショップ

家が新作を出品した。

関西国際空港は年間2千4百万人を超える旅客数を誇り、毎日多くの日本人、外国人が行き交う。毛筆文化になじみのない人にも、「日本の書道文化」の素晴らしさを見てもらいたい、知ってもらいたいという思いで、

日本最高峰の書家の作品を展示した。会期中は5日間、「筆と墨でうちわに文字を書いてみよう」などの体験コーナーを用意し、海外の方も含め、日本の書道文化を実際に肌で感じてもらうが、延べ1000人の参加があり、たいへん好評だった。

（出品書家）井茂圭洞、津金孝邦、樽本樹郎、星弘道、石飛博光、大井錦亭、田中鳳柳、吉川蕉仙、黒田賢一、高木聖雨、清水透石、田中節山、仲川恭司、辻元大雲、長野竹軒、舟尾圭碩

※敬称略

第44回「日本の書展」

関西展から九州展まで直轄4展の総出品数は3515点、入場者数は約16100人だった。前回好評だった展覧会場内でのギャラリートークを今展でも行い、聴講者の中にはメモを取りながら熱心に参加する姿も見受けられた。

関西展

平成28年5月27日(金)

5月29日(日)

会場 大阪国際会議場

主催 (公財)全国書美術振興会・産経新聞社

後援 文化庁

協賛 (公社)日本書芸院

ギャラリートーク

5月29日(日) 土井汲泉評議員(漢字・現代書壇代表)

出品数は、巨匠17点、代表85点(計102点が全展を巡回)、委嘱29点、招待378点、秀拔選579点、合計1088点、入場者数は約15000人だった。産経新聞紙面で展覧会紹介をしている。今回から、会場を例年より縮小し、また会期を1日短く週末



井茂圭洞名誉顧問

荒船清彦会長

3日間の開催となった。会期初日の5月27日(金)、リーガルホテル「ロイヤルホール」で約320人の出席による開幕祝賀会を行った。主催者を代表して津金孝邦理事長から、巨匠・代表出品者の推薦基準が改変されたこと、また書写・書道教育について「学習指導要領の改訂が進んでいるが、引き続き要望内容実現のために様々な活動を続けていきたい」と触れ、荒船清彦会長からは、日本書道ユニスコ登録推進協議会の動きについて「各都道府県の代表委員の先生方の熱意で、予想をはるかに上回る賛同団体署名が多く自治体をはじめとして集まっている。書道界を挙げて全国的な運動になっている」との挨拶があった。続いて産経新聞社齋藤勉専務取締役・大阪代表から共催者挨拶があり、井茂圭洞名誉



ギャラリートーク 土井汲泉評議員

中部展

平成28年5月31日(火)

6月5日(日)

○第1会場

会場 愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)

ギャラリートーク

6月4日(土) 松下英風評議員(漢字・委嘱)

○第2会場

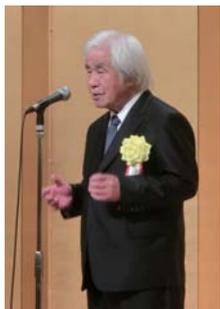
会場 名古屋博物館

主催 (公財)全国書美術振興会・中日新聞社

後援 文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市長・各県市教育委員会・東海テレビ放送

協賛 (公社)中部日本書道会

愛知県美術館ギャラリーと名古屋博物館で開催。出品数は、巨匠、代表の102点、委嘱16点、招待170点、秀拔選510点、合計798点、会期中の入場者数は2会場を合わせて約3400人だった。中日新聞紙面での展覧会紹介、東海テレビ



榎本樹邨顧問

顧問から「作品は書の美しさとその内容で、鑑賞するこちらの気持ちとを和ませてくれる。手書き文字の重要性を、この展覧会でも伝えていきたい」との挨拶と乾杯の発声により祝宴に入った。



ギャラリートーク 松下英風評議員

放送の放映があった。

5月31日(火)、名古屋東急ホテル「ヴェルサイユ」で約300人の出席による開幕祝賀会を行った。津金理事長、荒船会長から主催者代表挨拶、共催の中日新聞社小山勇常任顧問から挨拶があった後、出品書家を代表して榎本樹邨顧問から「書の生命体は、神・気・骨・肉・血で成り立つ。ひとつでも欠けてはならない。そんな作品を来年も楽しみにしている」との挨拶があり、東海テレビ放送加藤昭宏事業局専門局長の乾杯の発声で祝宴に入った。

東京展

平成28年6月9日(木)

6月19日(日)

会場 国立新美術館

主催 (公財)全国書美術振興会・共同通信社

後援 文化庁

ギャラリートーク

6月11日(土) 清水透石理事(かな・現代書壇代表)

6月18日(土) 海野濤山評議員(漢字・現代書壇代表)

出品数は、巨匠、代表の102点、委嘱39点、招待586点、秀拔選767点に加え、関西展、中部展、九州展の委嘱57点も同時に展示し、総展示数は1551点になった。入場者数は前年より増加し約9600名だった。会期初日の6月9日(木)、これまで使用していたホテルオークラ東京本館が建て替えのため、今回はパレスホテル東京「葵」にて開幕祝賀会を行い、約620名の出席があった。津金理事長、荒船会長から主催者挨拶、共同通信社岩永陽一取締役から共催者挨拶があった。衆議院議員、書道国会議員連盟会長の河村建夫氏から「書道という日本の伝統文化を守っていくため、議員の立場で応援していくことを目的に、書道国会議員連盟を立ち上げた。書写・書道教育の充実と、日本書道をユネスコの無形文化遺産に登録しようという2点に焦点を絞って運動を続けていく」との来賓祝辞があった。井茂圭洞名誉顧問の書家代



衆議院議員・書道国会議員連盟会長河村建夫氏

津金孝邦理事長



衆議院議員・書道国会議員
連盟会長代行塩谷立氏



ギャラリートーク 清水透石理事



ギャラリートーク 海野涛山評議員

表挨拶の後、衆議院議員、書道国会議員連盟会長代行の塩谷立氏から「書道は日本の文化の中でもいちばん身近な最高峰の素晴らしい文化。我々の世代が継承していくことが議員としての使命だと思っている」との挨拶と乾杯の発声により祝宴に入った。

九州展

平成28年7月14日(木)

7月18日(月・祝)

会場 福岡アジア美術館

主催 (公財)全国書道振興会



九州国立博物館
島谷弘幸館長

西日本新聞社
後援 文化庁
ギャラリートーク

7月16日(土) 野田正行先生
(かな・委嘱)

九州展の出品数は、巨匠、代表の102点、委嘱12点、招待122点、秀拔選205点、合計441点、会期中の入場者数は約1600人だった。西日本新聞紙面で展覧会紹介をしている。

7月14日(木)、ホテルオークラ福岡「平安の間」で開幕祝賀会を行い約100名の出席があった。津金理事長、荒船会長から主催者挨拶、西日本新聞社から主催者挨拶、西日本新聞社企画事業室長の伊藤陽氏から共催者挨拶があった。九州国立博物館島谷弘幸館長からは「日本の書展は会派を超えた展覧会。書をしている人だけが対象ではなく、そうでない人や海外の人より多くの人々に書をアピールするということを今後も続けて



ギャラリートーク 野田正行先生

ほしい」との挨拶と乾杯の発声により、祝宴に入った。

公募臨書(東京展会場内)

平成28年6月9日(木)

6月19日(日)

会場 国立新美術館

書の基本である臨書に限った公募展も、今回で5回目となった。出品要項は「日本の書展」直轄展、地方巡回展の会場をはじめ、全国の表具店、美術館、博物館、大学等に配布している。全国から906点の応募があり、18歳から93歳の応募が寄せられた。当会役員で構成される審査員8名による厳正な審査が行われ、その中から451点(漢字354点、かな86点、篆刻11点)が入選し、国立新美術館の「日本の書展」東京展の会場内に前期、後期に分けて展示された。表装された作品は、展示終了後入選證と一緒に入選者に届けられた。

巡回展

今回も「日本の書展」の直轄

四展が終了後、現代書壇巨匠、代表の全作品102点が、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国8会場を巡回している。地元作家の作品も各地それぞれ189点

から618点が併せて展示され、特徴ある展覧会を開催している。

開催地(主催新聞社)・会期・

会場の順

○富山(北日本新聞社)

平成28年7月21日~7月24日

富山県民会館

○米子(山陰中央新報社)

平成28年8月26日~8月29日

米子市美術館

○青森(東奥日報社)

平成28年9月8日~9月12日

青森市民美術展示館

○広島(中国新聞社)

平成28年9月29日~10月4日

福屋広島駅前店

○岡山(山陽新聞社)

平成28年10月12日~10月17日

天満屋岡山店 6階葦川会館

○奈良(奈良新聞社)

平成29年2月22日~2月26日

奈良県文化会館

○長野(信濃毎日新聞社)

平成29年3月3日~3月6日

長野県信濃美術館

○水戸(茨城新聞社)

平成29年4月15日~4月20日

茨城県立県民文化センター

展覧会案内

第45回「日本の書展」

◎45回展を記念して、講演会を開催

大阪国際会議場(3階イベントホール)

午前10時~午後5時(最終日は午後4時閉館)

主催 公益財団法人全国書美術振興会・産経新聞社

後援 文化庁

協賛 公益財団法人日本書芸院

◎記念講演会

6月2日(金)午後4時~

リーガロイヤルホテル 2階

桐の間

講師 内田篤貞氏(MOA美術館館長)

◎ギャラリートーク

6月4日(日)午前11時~

田中徹夫評議員(かな・現代書壇代表)

中部展

※今回は一会場

平成29年6月7日(水)

6月11日(日)

愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)

午前10時~午後6時(9日(金)は午後8時閉館、最終日は午後4時閉館、入館は各日とも閉館30分前まで)

主催 公益財団法人全国書美術振興会・中日新聞社

後援 文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市長・各県市教育委員会・東海テレビ放送

協賛 公益財団法人中部日本書道会

◎記念講演会

6月7日(水)午後4時30分~

名古屋東急ホテル 3階 バロック

関西展

平成29年6月2日(金)

6月4日(日)

講師 唐澤昌宏氏（東京国立近代美術館工芸課長）
 ○ギャラリートーク
 6月10日（土）午後2時
 関根玉振先生（漢字・委嘱）

東京展 **公募臨書**

平成29年6月15日（木）
 ～6月25日（日）
 〈20日（火）は休館日〉
 国立新美術館（展示室1A・1B・1C・1D）
 午前10時～午後6時「入場は午後5時30分まで」
 主催 公益財団法人全国書美術振興会・共同通信社
 後援 文化庁

◎記念講演会
 6月15日（木）午前11時
 パレスホテル東京 4階 山吹講師 松浦晃一郎氏（元ユネスコ事務局長） 愛川フオル紀子氏（元ユネスコ無形文化遺産担当部長）
 ○ギャラリートーク
 6月17日（土）午後2時
 師田久子理事（かな・現代書壇代表）
 6月24日（土）午後2時
 西村東軒評議員（漢字・現代書壇代表）

九州展

平成29年6月29日（木）
 ～7月4日（火）
 福岡アジア美術館（7階企画ギャラリー）／8階交流ギャラリー
 午前10時～午後8時「最終日は午後5時30分閉館、入館は各日

とも閉館30分前まで」
 主催 公益財団法人全国書美術振興会・西日本新聞社
 後援 文化庁
 ◎記念講演会
 6月29日（木）午後4時30分
 ホテルオークラ福岡 3階 オークルーム
 講師 長野秀章氏（東京学芸大学名誉教授・全日本書写書道教育研究会理事長）
 ○ギャラリートーク
 7月1日（土）午後2時
 二宮欣山先生（漢字・委嘱）

巡回展

現代書壇巨匠・代表の全作品が、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国を巡回。
富山（北日本新聞社）
 平成29年7月20日～7月23日 富山県民会館
島根（山陰中央新報社）
 平成29年8月31日～9月4日 島根県立美術館
青森（東奥日報社）
 平成29年9月14日～9月18日 青森市民美術館
広島（中国新聞社）
 平成29年9月28日～10月3日 福屋広島駅前店 催事場
岡山（山陽新聞社）
 平成29年10月18日～10月23日 天満屋岡山店 6階葦川会館
奈良（奈良新聞社）
 平成30年2月15日～2月18日 奈良県文化会館
長野（信濃毎日新聞社）
 平成30年3月1日～3月6日

ながの東急百貨店（予定）
水戸（茨城新聞社）
 平成30年4月14日～4月19日 茨城県立県民文化センター
 ※開催情報は変更となる場合があります。

役員名簿

代表理事・会長 荒船 清彦 ※印＝新任
 代表理事・理事長 高木 聖雨
 業務執行理事・常務理事 石飛 博光 黒田 賢一
 田中 節山 仲川 恭司
 星 弘道
 理事 有岡 郁崖 市澤 静山
 今村 桂山 大平 匡昭
 角元 正燦 師田 久子
 高木 厚人 辻元 大雲
 土橋 靖子 土井 汲泉
 中村 伸夫 真神 巍堂
 横山 煌平
 監事 牛窪 梧十 河野 隆
 永守 蒼穹
 ※任期 平成28年12月5日～平成30年12月開催予定の定時評議員会の終結時
 評議員 明石 聰濤 石澤 桐雨
 泉原 壽巖 伊藤 一翔
 伊藤 仙游 井上 映粧
 井上 清雅 井之上南岳
 今関 敏子 岩田 海道
 岩永 栖邨 植松 龍祥
 海野 涛山 大澤 城山
 尾崎 蒼石 鬼頭 翔雲
 笹原 宏之 霜島 秋則
 杉本 新 鈴木 響泉

田頭 一舟 田中 徹夫
 西村 東軒 深瀬 裕之
 福光 幽石 舟尾 圭碩
 古谷 稔 松清 秀仙
 松下 英風 宮負 丁香
 室井 玄聳 森上 光月
 山中 翠谷 山根 瓦清
 山本 高邨 吉川美恵子
 吉澤 大淳 吉澤 鐵之
 吉田 成美 和中 簡堂

松塚 玲糸 三神 榮軒
 宮崎 葵光 村井 虹城
 村上 俄山 村寄 鴨畦
 毛利 柳村 望月 和風
 森川 星葉 八木 山鈴
 山田 勝香 山本 悠雲
 吉川 蕉仙
 ※任期 平成28年12月5日

書美術功労者の顕彰

文化功労者となられた尾崎邑鵬先生、小山やす子先生の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

近年物故者

次の役員の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

恩地春洋先生（参事） 平成28年6月14日 87歳
 甫田鶏川先生（顧問） 平成28年6月26日 92歳
 鈴木瑞之先生（参事） 平成28年8月1日 78歳
 松永陽石先生（参事） 平成28年10月17日 92歳
 大重筠石先生（参事） 平成28年11月6日 86歳
 貞政少登先生（参事） 平成29年1月22日 84歳
 高木聖鶴先生（名誉顧問） 平成29年2月24日 93歳

事務所の案内

〒107-0052
 東京都港区赤坂2-11-1 デルックス溜池山王6階
 FAXTEL 03-35668120 071
 ホームページ http://shobi.or.jp/
 メールアドレス info@shobi.or.jp